秋田きらり支援学校は・肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより
きらりNet

令和７年７月３１日
第１４８号
秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

病弱教育サポートセンターきらり☆の取組

県内の病弱教育を推進するための中核的な拠点として「病弱教育サポートセンターきらり☆（以下、サポセン）」が本校に設置され６年目になります。病弱教育対象幼児児童生徒への「相談支援・教育活動支援」や関わる先生方に向けた「研修・情報発信」等を行っています。（今年度の研修：右記参照）

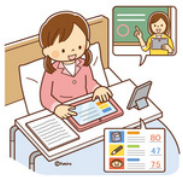
さらに、大きな役割として「入院幼児児童生徒への相談支援・学習支援」があります。在籍校や主治医からの依頼を受け、秋田市内の小児科入院病棟のある４つの病院と医療療育センターを訪問し、支援を行っています。

肢体不自由・病弱教育研修会
日時：７月25日（金）
13:30～16:00
場所：秋田きらり支援学校

病気の子どもの教育支援フォーラム
日時：11月８日（土）
13:00～16:30
場所：カレッジプラザ
(明徳館ビル２F)

＜昨年度の入院児支援の実績＞

	人数（小／中／高／特）	回数	在籍校とのオンライン授業の実施
A病院	５２（３０／１４／５／３）	４６７	5
B病院	１２（６／４／２／０）	５１	4
C病院	２（０／２／０／０）	4	0
D病院	４（２／２／０／０）	３１	0
E病院	２（１／０／１／０）	１０	1
計	７２（３９／２２／８／３）	５６３	１０



（文責：小林佐知子）

幼児教室「きらり☆ひろば」

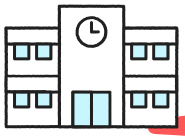
6月の活動「あめふり」

入院児への支援として、中通病院小児科に入院している幼児を対象に、幼児教室「きらり☆ひろば」を実施しています。月２回、病室を訪問し、ベッドサイドで歌や手遊び・絵本の読み聞かせ・季節の制作等の活動を行います。

入院していても季節の移り変わりを感じることができるよう、四季に合わせて活動内容を変えています。この日は梅雨に合わせて雨傘をさし、一緒に「あめふり」の歌を歌いました。

保護者の声
「入院中、親子で動画を見て過ごしていたので、一緒に遊ぶ機会をつくっていただいて気分転換になった」
「子どもの笑顔が見られてうれしかった」

（文責：高橋葉月）



入院児への支援（A小学校の場合）

Ａ小学校６年生のＢさんは、病気のため１か月半ほど入院しました。入院中、体調は安定しており、 検査や治療がある以外は普段と変わらず過ごせていました。

＜本人・保護者のニーズ＞
〇学校の授業に遅れることが心配。
〇絵を描いたり工作したり
　することが好き。
　病院でもできるかな。

＜Ａ小学校の教頭先生と担任の先生より＞
〇オンライン授業は可能。まずは、学校にある一人
　１台端末を渡し、朝の会と算数を中心に計画したい。
〇１週間分まとめて、授業プリントを渡したい。
〇サポセンに、オンライン授業の接続とプリント学習
　のサポートをお願いしたい。

２回目からは、Ｂさんが自分でタブレットを接続しました。毎日朝の会をつないでもらったことで、その日の授業予定と検査予定等を担任の先生と相談し、無理のないペースでオンライン授業に参加しました。

Ｂさんは年度末に体調不良になり、そのまま入院になったため、新学期になってから登校できていませんでした。しかし、授業意外に休み時間もオンラインでつないだことで、クラスメイトと話しができ、安心感を得ていました。
　思いを込めて全員にビーズストラップを作り、プレゼントしました。

　授業では、先生が画面共有機能を使いめあてや資料を映してくれました。
受けられなかった授業分は板書を写したノートのコピーが届きました。Ｂさんの発言に対し、「みんなはどう?」と問い掛け、クラスメイトの「いいでーす！」の声が聞こえると笑顔が見られました。

　入院中に行われた運動会は、家族が学校に出向いてビデオ通話をつないでくれました。病院から競技を参観できただけでなく、クラスメイトがＢさんが作成したストラップをカバンに付けてくれている様子が映り、「嬉しかった」と教えてくれました。

（文責：高橋　葉月）

教育専門監のつぶやき

　病名が告げられ、入院となった子どもたちは、それまで当たり前に過ごしていた学校生活と突然切り離された気持ちになります。数週間であっても子どもにとっては長い期間です。また、病院では、家族と離れて過ごす子どもを思い、不安や心配で涙を流す保護者も少なくありません。
　そんな中、保護者からオンライン授業の依頼があったＡ小学校は、すぐに１台端末を貸し出し、実施に向けて動いてくださいました。そのスピード感は、本人・保護者にどれほどの安心感を与えたことでしょう。オンライン授業での先生や友達からの声掛け、週末に届く友達の字で書かれたノートのコピー等は、病室にいながらも教室を身近に感じさせてくれました。
　さらに、Ｂさんが病院で受けたテストは１００点！「病院でも学校と変わらずに授業を受けられると分かった。安心したし自信になった。」と教えてくれました。担任の先生の配慮が行き届いたさりげない支援は、Ｂさんが治療や勉強をがんばる上で大きな力になりました。　（文責：藤井　奈緒子）